

はしがき

アジア経済研究所の発行する統計資料シリーズ (IDE Statistical Data Series; SDS) は貿易統計、国際産業連関表、人口統計等の途上国にかかわる経済統計を作成、整備、評価しつつまとめられたものであり、経済分析のための基礎資料として研究所内外で広く利用されてきている。本書『国際貿易データと貿易指数：国際比較可能な貿易指数を目指して』(International Trade Data and Trade Indices : Toward Internationally Comparable Trade Indices; 統計資料シリーズ No.96) は貿易統計にかかわる課題を中心にまとめたものであり、国際連合 (UN) の United Nations Commodity Trade Statistics Database (Comtrade データ) を利用した貿易データの整合性の評価、貿易指数の作成と評価を対象としている。

アジア経済研究所の経常研究の1つである「貿易指数の作成と応用 (VI)」研究会は世界貿易データの利用という立場から、貿易指数の作成・評価とそれに基づく国際比較と分析を目的としている。本研究会における研究課題および方法論の概要は以下の通りである。

(1) 貿易指数の基礎データである国際貿易データ、主として UN Comtrade データの利用について考察すると同時にその整合性を評価し、可能な限りその補正をおこなう。

(2) 貿易指数作成において指数分類コードを標準国際貿易商品分類 (SITC) の上位桁レベル、国際産業連関表の 24 部門分類 (IO24)、国際標準産業分類 (ISIC)、BEC として、それぞれの分類による整合性のとれた貿易マトリクスと貿易指数を作成する。

(3) 貿易指数は各国別、指数分類コードごとに

ラスパイレス式指数、パーシェ式指数およびそれぞれの連鎖式指数を計算する。また、貿易指数の算式方法についても検討し、特に品質に変化がある場合の貿易指数の問題についてはその利用可能性も含めて検討する。

(4) 貿易指数について指数分類コードごとの国際比較、各国間の相互比較、世界の貿易指数と各国貿易指数との比較をおこなう。

(5) 貿易指数における経済分析への応用として国際競争力との関係も含め、方法論のみならずいくつかの実証研究をおこなう。

貿易指数を作成するに当たっては元になる貿易統計データの取引額と数量がともに長期時系列として整合性の取れた状態にあることが必要である。また、作成された貿易指数あるいは関連指標を国際比較・分析に実際に適用してみることで改めてその指数の整合性、有効性あるいは問題が浮き彫りにされることがある。本研究会における貿易統計の長期時系列による整合性の評価は最も基礎的な重要課題である。

本書は同研究会の最終成果の一部を取りまとめたものである。第1部は貿易データの作成および整合性の評価と補正の課題および貿易指数の作成と評価の課題であり、第1章の「商品貿易統計の国際基準と Comtrade」(熊倉正修)、第2章の「台湾貿易データにおける Comtrade 準拠の変換方法」

(野田容助)、第3章の「連結された HS 各改訂版のグループ化と分類の変換」(野田容助・木下宗七)、第4章の「日本の輸出単価指数と輸出物価指数の乖離とその背景要因」(熊倉正修・黒子正人)、Chapter 5 の「Revealed Comparative Advantage (RCA) Indices by Industry in China (1992-2010)」(三

尾寿幸)、第6章の「貿易データ変換のための対応関係コード表のグループ化と連結」(野田容助)、第7章の「対応関係コード表のグループにおけるタイプの識別とその特徴」(野田容助)から構成されている。第2部の資料編については、「貿易単価指数表(総合および産業分類別)の見方」(黒子正人)、「貿易単価指数表(総合および産業分類別)」(黒子正人)から構成されている。

なお、貿易データの取得においてアジア経済研究所研究支援部研究情報システム課の山口絵理氏より多大な協力を得たことを感謝し、付記する。

本書は貿易指数の作成と評価に限って検討しているが、この成果はまたより一般的な貿易統計を利用した貿易構造あるいは産業構造を考慮するさいにもいろいろな場面での示唆を与えるものにな

ると思われる。

2012年3月

アジア経済研究所 開発研究センター 経済社会展望研究グループ

「貿易指数の作成と応用(VI)」研究会主査
野田容助

アジア経済研究所 新領域研究センター 技術革新・成長研究グループ

「貿易指数の作成と応用(VI)」研究会幹事
黒子正人